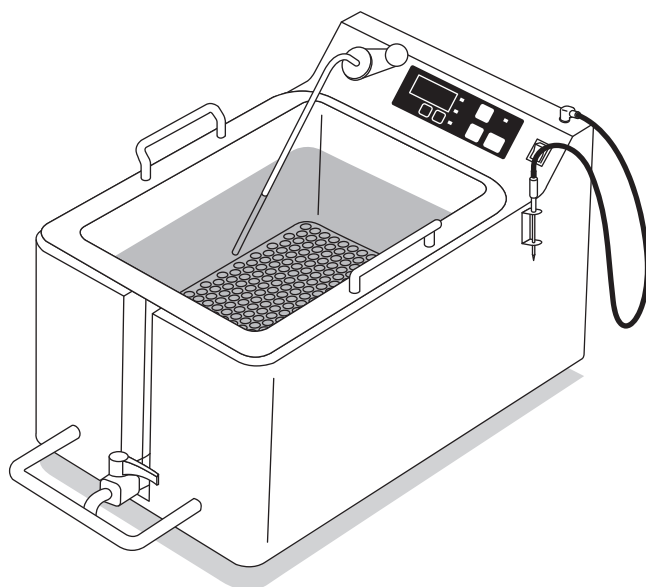


調理用オイルバス

OB28

目次

安全上のご注意	1
各部の名称	3
操作部の説明	4
付属品	5
設置方法	5
使用準備	6
使用方法	7
排油の方法	11
お手入れ方法	12
困ったときは	14
製品仕様	15
アフターサービスについて	16
製品保証規定	



安全上のご注意

- ◎ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ◎ ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
- ◎ お読みにになった後は、お使いになる方がいつでも見るように大切に保管してください。

— 安全のために必ずお守りください —

■ 誤った使いかたをしたときに生じる、危険や損害の程度を区分して説明しています。

 警告	死亡または重傷を負う恐れがある内容です。
---	----------------------

 注意	軽傷を負うことや財産の損害が発生する恐れがある内容です。
---	------------------------------

■ お守りいただく内容の種類を次の区分で説明しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない内容です。
	製品の取り扱いにおいて、 実行しなければならない 内容です。

設置するとき

 警告		● 右記のものの近くには絶対に設置をしない ・ 発火の恐れがあります。 可燃物 可燃性ガス 揮発性の高いもの
		● 変換プラグのアース線は右記のものには接続しない ・ 感電の恐れがあります。 ガス管 アンテナ端子 水道管 電話端子
		● 「交流 100 ボルト」以外の電圧で使用しない ・ 発火や感電の恐れがあります。
		● 延長ケーブルやタコ足配線、他の器具との分岐コンセントは使用しない ・ 分岐コンセント部分や電線が異常過熱し、火災の原因になります。
		● 電源コードを加工したり、束ねたり、上に物を置いたり、引っばったりしない ・ 発火や感電の恐れがあります。
		● 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む ・ 発火や感電の恐れがあります。
		● 屋内の雨水のかからない場所に設置する ・ 製品内部に水が入り、感電の恐れがあります。
		● 湿気の少ない場所に設置する ・ 湿気が多いと電気配線・コードが劣化して、感電の恐れがあります。
 注意		● 本体を積み重ねない ・ 転倒してケガをする恐れがあります。
		● 「水平で丈夫な台」の上に置く ・ 落下してケガをする恐れがあります。

使用するとき

 警告		●ぬれた手で電源スイッチを操作しない ・皮膚がぬれていると電気を通しやすくなり、感電の恐れがあります。
		●揮発性・引火性のあるものは庫内に入れない ・爆発や火災の原因になります。
 注意		●本体の上に物を乗せたり、寄り掛かったりしない ・転倒事故でケガをしたり、製品故障の原因になります。
		●油以外の液体は入れない ・故障の原因になります。
		●使用中は傾けたり、動かしたり、持ち運んだりしない ・油がこぼれやけどの原因になります。
		●定期的にお手入れをする ・故障、異臭の原因になります。

お手入れのとき・移動するとき

 警告		●操作パネル部には、水や洗剤をかけない ・感電の恐れがあります。
		●本体に水を掛けたり、水につけたり、水洗いをしない ・感電や故障の恐れがあります。
		●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ・皮膚がぬれていると電気を通しやすくなり、感電の恐れがあります。
		●電源コードを引っ張って電源プラグを抜かない ・電源コードが破損して、感電や発火の恐れがあります。
		●お手入れや移動の際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く ・機器に電気が供給されているため、感電の恐れがあります。
		●万一、本体を落としたり破損した場合には、ただちに使用を停止して点検を受ける ・内部の電気配線が破損している場合など、感電や発火の恐れがあります。
 注意		●鍋に油や食材を入れたまま本体を移動しない ・油がこぼれて、ヤケドの恐れがあります。

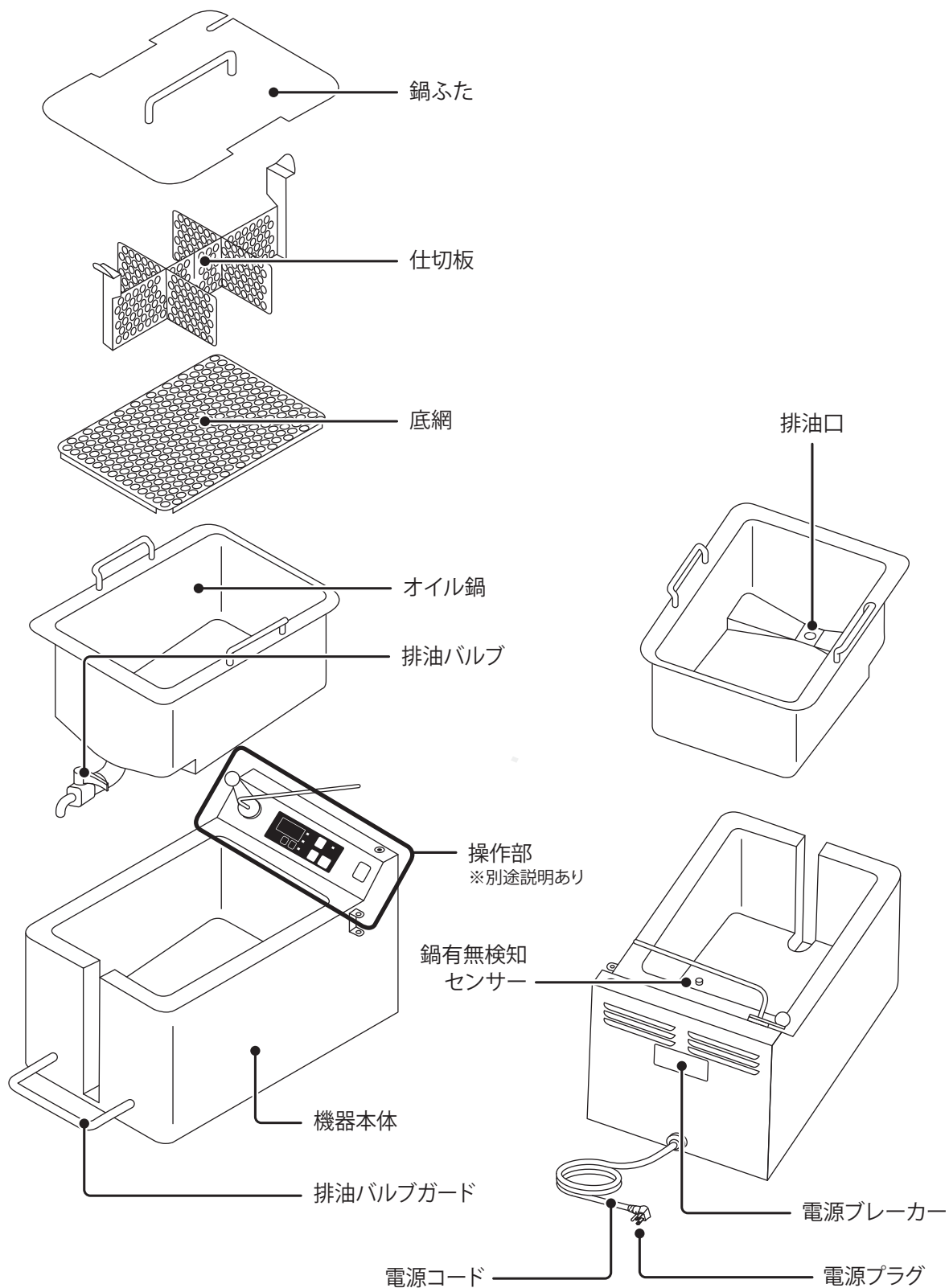
正常に作動しないとき

 警告		●当社指定の修理業者以外は、絶対に分解したり修理は行わない ・発火したり、異常動作してケガの恐れがあります。
---	---	---

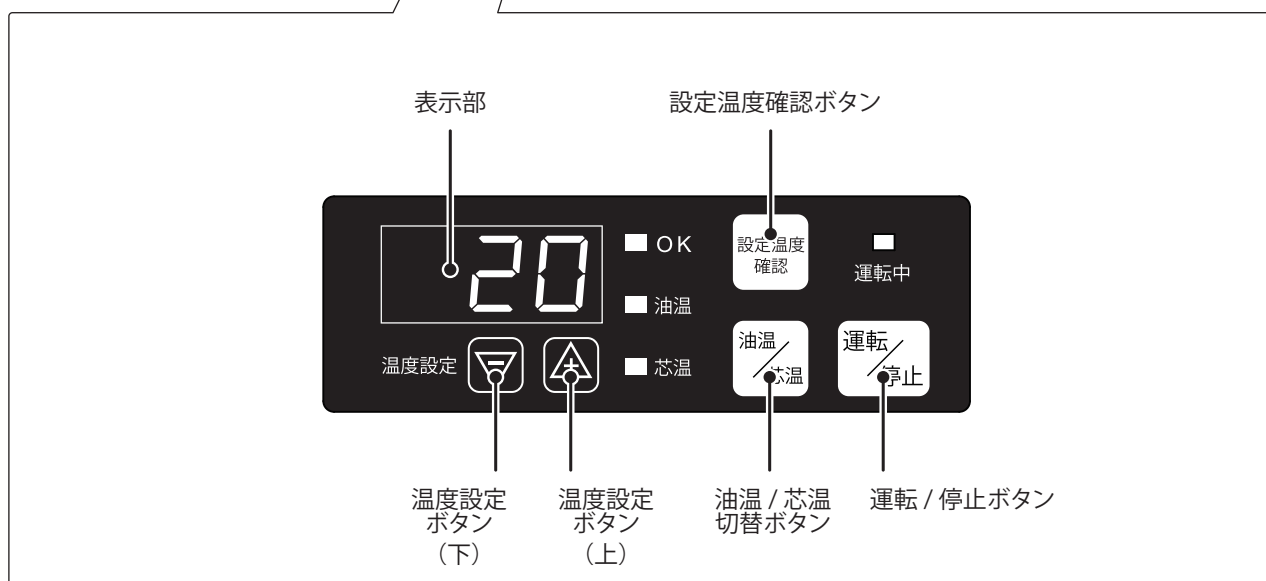
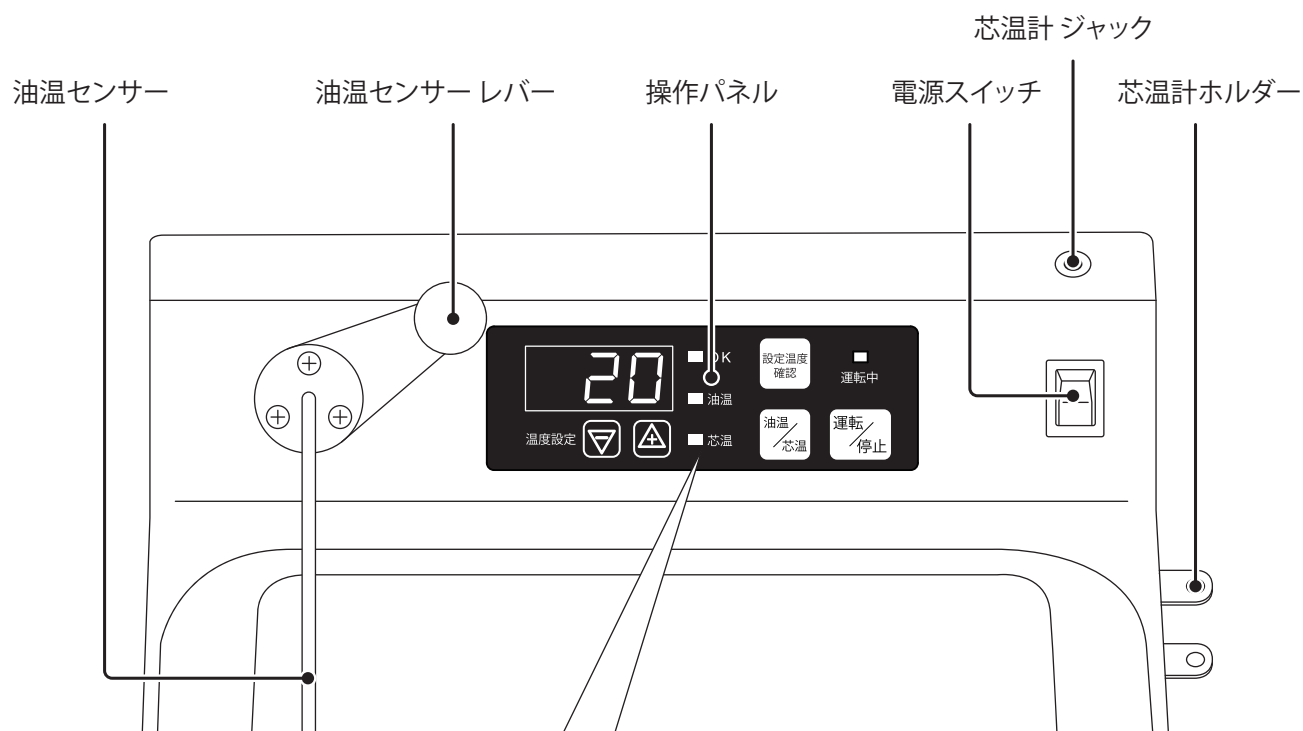
ご使用にならないとき

 注意		●湿気の少ないところに保管する ・電気配線・コードが劣化して、再度ご使用される際に感電の恐れがあります。
---	---	---

各部の名称

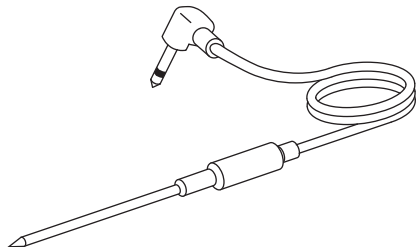
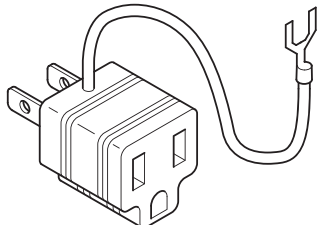


操作部の説明



付属品

■ 次の付属品が揃っていることを確認してください

芯温計	変換プラグ
	
[1 個]	[1 個]

設置方法

■ 「安全上のご注意」を必ず守っていただき、正しく設置してください

1 「開梱時の注意」を確認しながら、梱包箱から製品と付属品を取り出す

- 付属品を確認します。

2 丈夫な台の上に水平に設置する

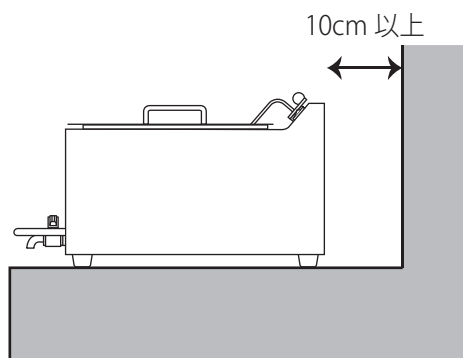
- オイル満タン時：約 20kg になります。

注意

- ・ 指などを挟まないようにしてください。
- ・ 本体背面は壁から 10cm 以上離してください。

次の場所には設置しないでください。

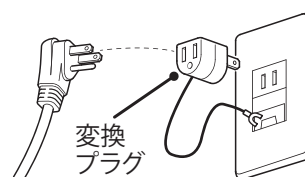
- ・ 熱の影響を受ける場所
(オーブン、蒸し器、冷凍ケース等の近くは避ける)



3 電源プラグをコンセントに差し込む

- 注意**
- ・ 他の製品とコンセントを共用する場合はコンセントの容量を確認してください。消費電力オーバーにより、ブレーカーが作動する可能性があります。
 - ・ 電源プラグは、アース付きの 3P タイプです。コンセントが 3P 対応でない場合、付属の変換プラグをご使用ください。
 - ・ 電源コードは、踏んだり・引っ掛けたりしないように注意してください。

コンセントが 3P 対応でない場合



変換プラグのアース線は、コンセントのアース端子に必ず接続してください。

使用準備

油温センサ

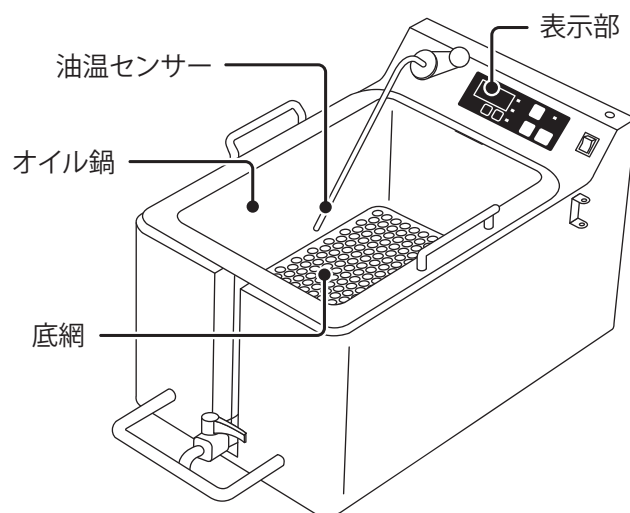
1 運転準備時は、油温センサーを右図の位置(※下位置)にセットする

注意 油温センサーが下位置にセットされていない場合

- ・ 運転開始することができません。
- ・ 「運転ボタン」を押すと表示部にエラーコード「SEn」が表示されます。

注意 油温センサーが下位置にセットされている場合

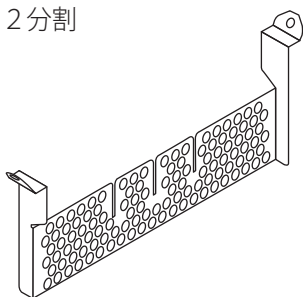
- ・ オイル鍋、底網の着脱ができません。



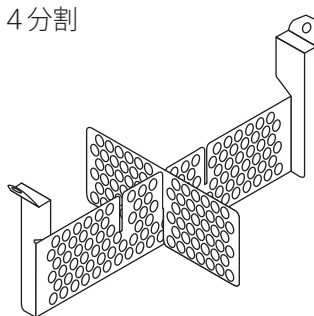
仕切板 ※オイル鍋を分割して使用する場合

1 使用用途に応じて、下図のようにセットして使用する

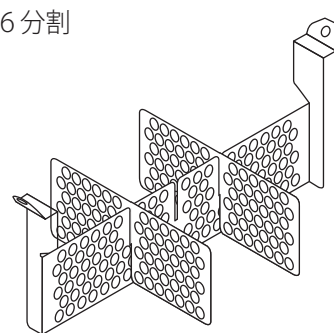
● 2分割



● 4分割

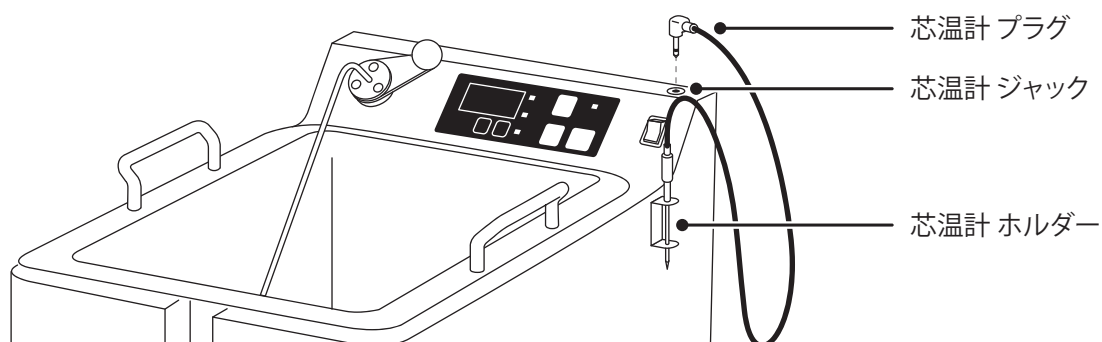


● 6分割



芯温計

1 芯温計プラグをジャックに差し込む



使用方法

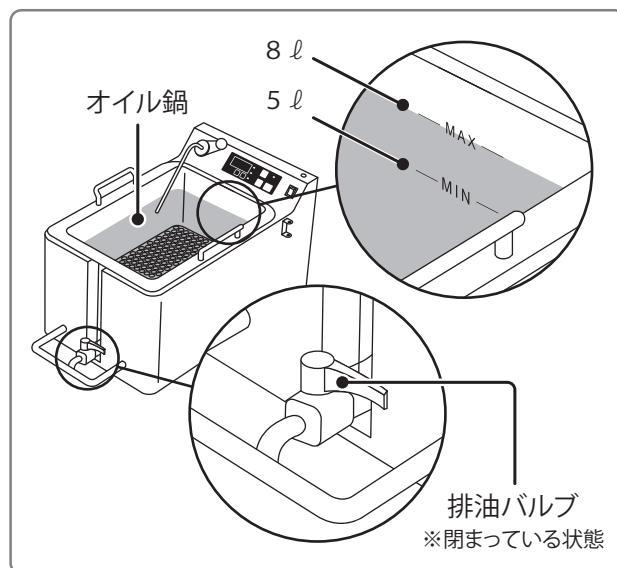
■「安全上のご注意」を必ず守っていただき、正しく使用してください。

1 オイルを入れる

- 排油バルブが閉まっていることを確認ください。
- オイルを 5～8 ℓ 用意してください。
- オイル鍋の MAX ラインと MIN ラインを確認しながら、オイルを入れてください。

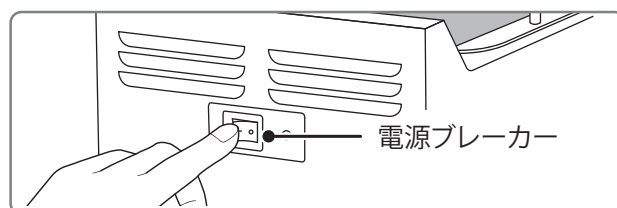
注意

- ・ オイルの量が MIN ライン以下の場合、油温センサーは正しく温度を測定することができません。
- ・ 本機はオイル専用機です。水の加温はできません。
- ・ 空焚きは故障の原因になります。必ずオイルを入れた状態で運転してください。
- ・ 空焚き運転を続けると表示部に「OH」が表示され運転が停止します。



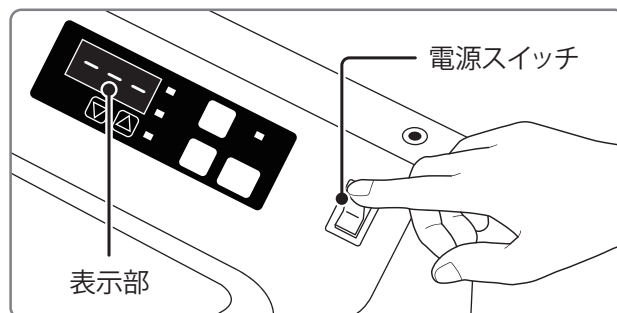
2 電源ブレーカーを入れる

- 電源ブレーカーは、本体背面にあります。



3 電源スイッチを入れる

- 電源スイッチをオンにします。
- 表示部に「---」が点滅表示されます。

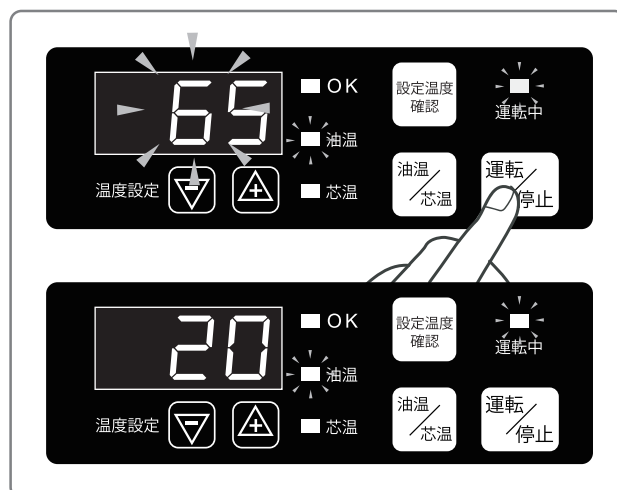


4 「運転 / 停止ボタン」を押す

- 「運転中」ランプと「油温」ランプが点灯します。
- 表示部に設定油温を 3 秒間点滅表示したのち、現在の「油温」が表示されます。

注意

- ・ この時点で、加温が開始されます。
- ・ 表示部に「PAn」が表示される場合、オイル鍋が正しくセットされていない可能性があります。オイル鍋の底面が本体に接地するようにセットしてください。



5 設定油温をセットする

- 「油温」ランプが点灯していることを確認してください。
- 「芯温」ランプが点灯している場合は、「油温 / 芯温切替ボタン」を押して、表示を切替えてください。
- 出荷時の設定油温は 65℃ です。

「温度設定ボタン」▼▲のいずれかを押す

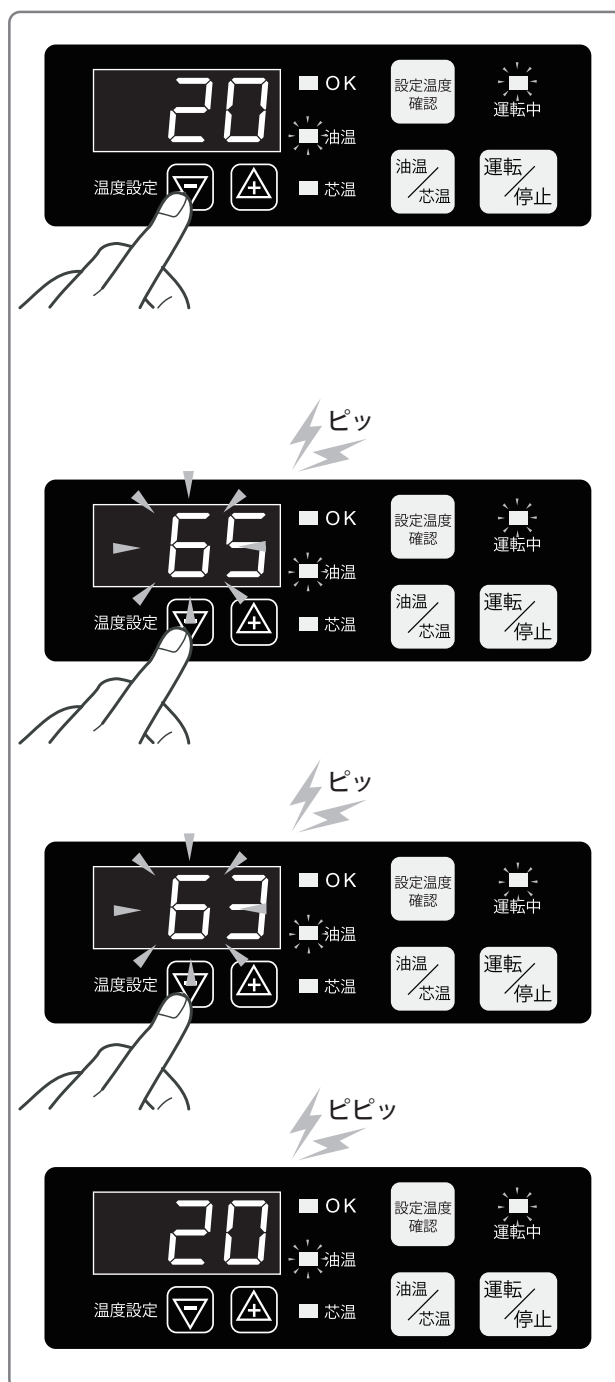
- "ピッ"と音が鳴り、現在の設定油温が点滅表示されます。

設定油温が点滅表示されている間に、「温度設定ボタン」で希望の設定油温にセットする

- 50 ～ 100℃の範囲でセット可能です。
- 操作停止 3 秒後に"ピピッ"と音が鳴り、設定油温が記憶され、現在の油温表示に戻ります。

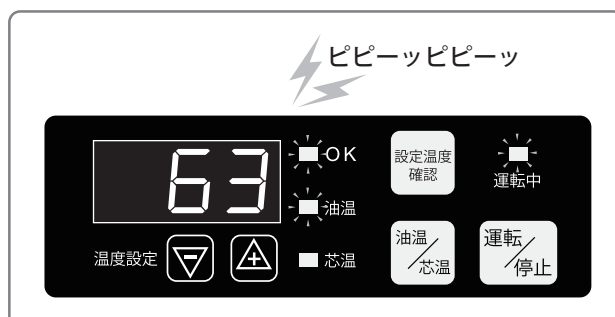
加熱時間の目安 常温～ 65℃まで

- 8 l (MAX ライン) …… 約 65 分
 - 5 l (MIN ライン) …… 約 50 分
- ※オイルの温度、室温等の条件で多少前後します。



6 設定油温に到達

- 設定油温に到達するとアラームがなり、「OK」ランプが点灯します。
- 立ち上げ時、設定油温より少し高くなることがありますが、しばらくすると設定油温に落ち着きます。



7 設定芯温をセットする

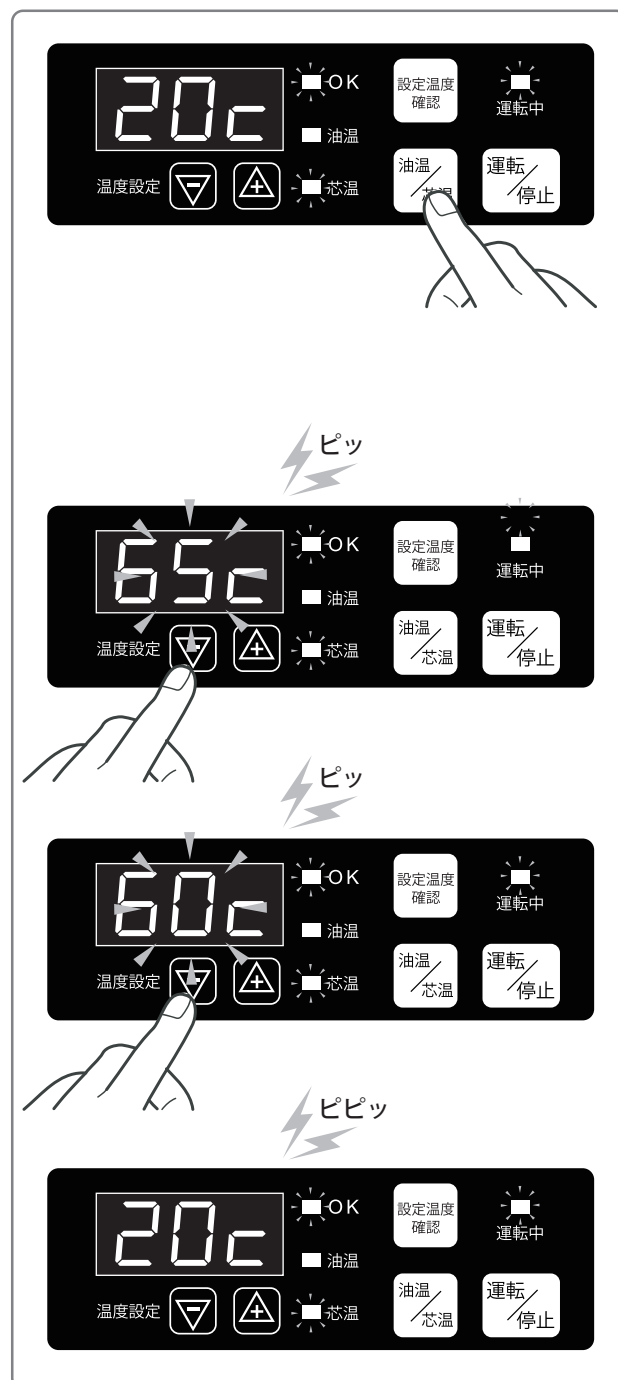
- 「油温 / 芯温切替ボタン」を押して、芯温表示に切替えてください。
- 芯温表示に切替えると「芯温」ランプが点灯して表示温度に「c」が表示されます。
- 出荷時の設定芯温は 65℃ です。

「温度設定ボタン」▼▲のいずれかを押す

- “ピッ”と音が鳴り、現在の設定芯温が点滅表示されます。

設定芯温が点滅表示されている間に、「温度設定ボタン」で希望の設定芯温にセットする

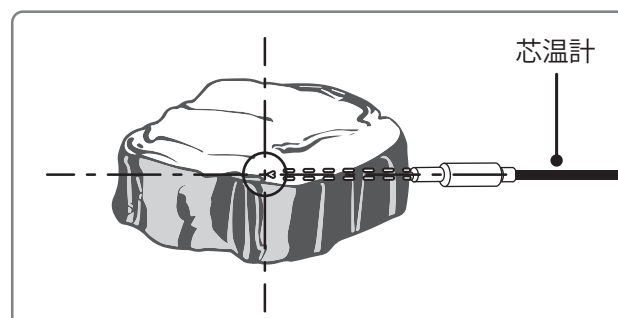
- 5 ～ 99℃の範囲でセット可能です。
- 操作停止 3 秒後に“ピピッ”と音が鳴り、設定芯温が記憶され、現在の芯温表示に戻ります。



8 芯温計を調理する食材にセットする

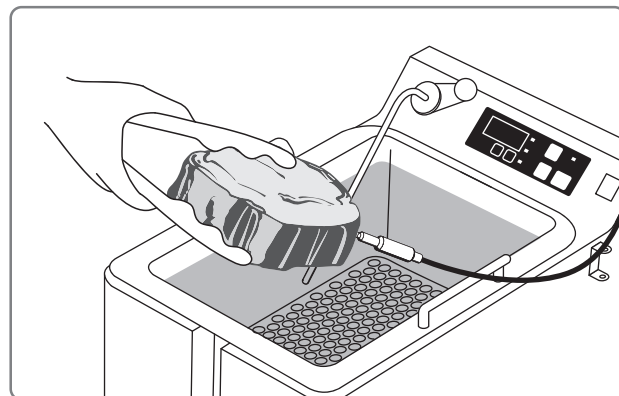
- 芯温計の先端が、調理する食材の中心に位置するように差し込みます。

※硬い食材の場合は、先端が尖った串などで事前に穴を開けておくことをおすすめします。



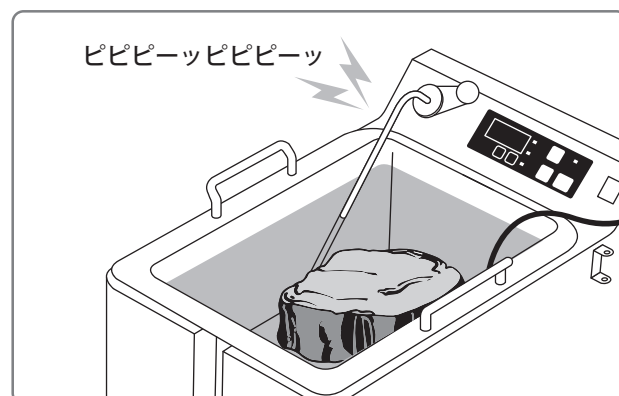
9 食材を投入する

- 芯温計をセットした食材をオイルの中にゆっくり入れてください。
- 食材は油温センサーに触れないようにしてください。



10 設定芯温に到達

- 設定芯温に到達すると「OK」ランプが点灯しアラームがなります。
- 設定芯温到達後に一定時間加温する場合は、キッチンタイマー等を利用してください。

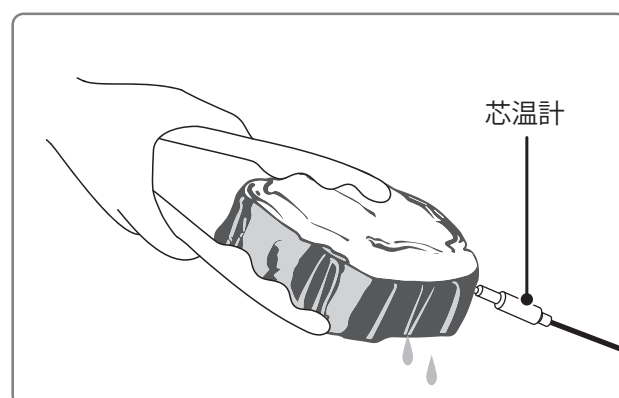


11 食材を取り出す

- 続けて別の食材を調理する場合、設定油温、設定芯温を確認して調理を継続してください。

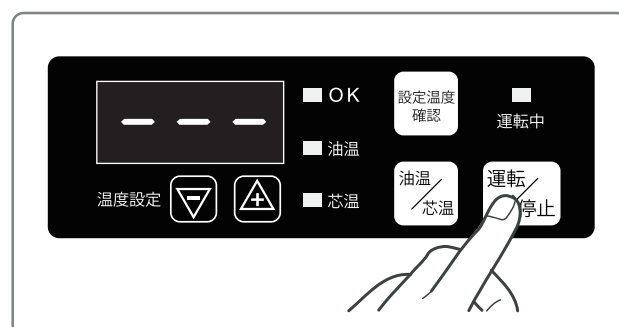
再度、芯温計のアラームをセットする場合

- ・「設定温度確認ボタン」を押してください。
- ・「OK」ランプが消灯し、アラームがリセットされます。



12 運転を停止する

- 「運転 / 停止ボタン」を押します。
- 「運転中」ランプが消灯して、表示部に「---」が点滅表示していることを確認してください。

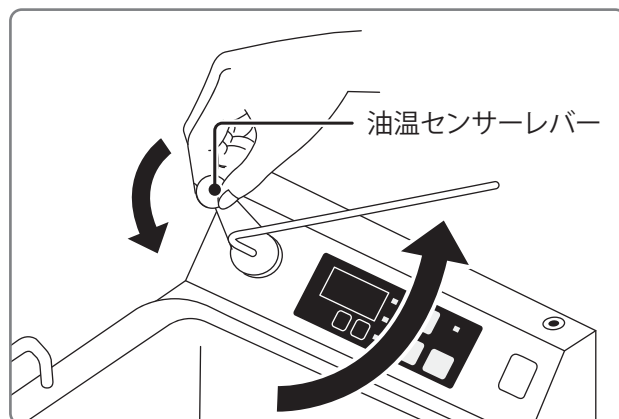


排油の方法

■ オイルの温度を下げてから作業をおこなってください

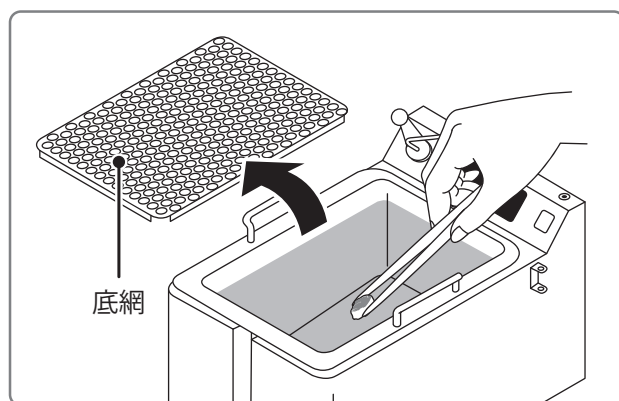
1 油温センサーレバーをまわして、油温センサーを右図の位置(※上位置)に移動する

- 仕切板を使用している場合は、事前に取り外してください。

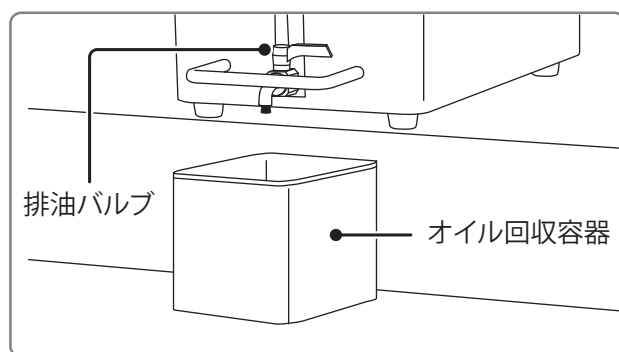


2 底網を取り外して、オイル鍋の底にある大きな肉片などを取り除く

- 肉片が残っていると、排油バルブが詰まる場合があります。

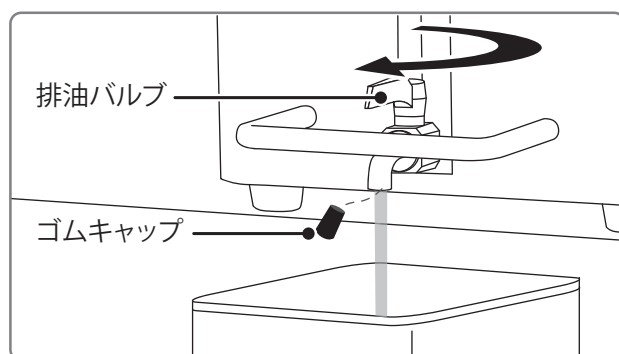


3 排油バルブの下にオイルの回収容器をセットする



4 排油バルブ口の先端に付いているゴムキャップを外してから、排油バルブをまわす

- 右図のように排油バルブ口より、オイルが排出されます。
- 排油後、バルブの締め忘れとゴムキャップの付け忘れにご注意ください。



お手入れ方法

■「安全上のご注意」を必ず守ってください。また、次の手順にそって毎日お手入れを行ってください。

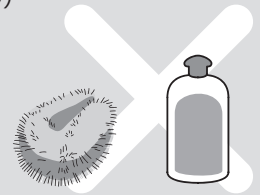
「使用できる」お手入れ用品

- 中性洗剤
- 柔らかい布



「使用してはいけない」お手入れ用品

- 酸性・アルカリ性の洗剤・洗剤・漂白剤
(表面の変色・シミの原因)
- クレンザー・みがき粉(粉末、研磨力の強いもの)
(研磨剤によるキズの原因)
- 塩酸・クエン酸、シンナーなど
(表面の変色・シミの原因)
- アルミ付きのスポンジ、メラミン系スポンジ、
ナイロン・金属のたわし
(表面を傷める原因)

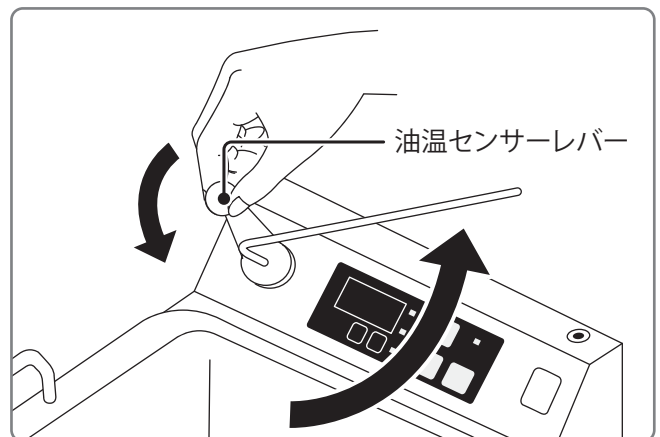


オイル鍋、底網、仕切板の清掃

- 1 電源スイッチと電源ブレーカーをオフにして、電源プラグをコンセントから抜く

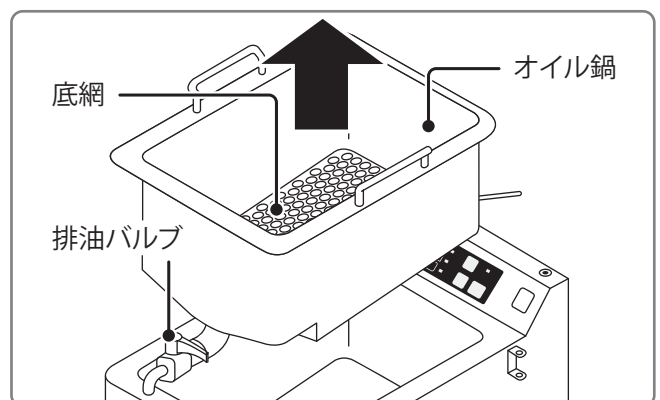
- 2 油温センサーレバーをまわして、油温センサーを右図の位置(※上位置)に移動する

- 油温センサーを移動する前にオイル鍋を取り外そうとすると、油温センサー破損の原因となります。
- 仕切板を使用している場合は、事前に取り外してください。



- 3 オイル鍋と底網を取り外す

- 排油バルブが閉まっていることを確認してください。
- オイル鍋は、ゆっくり垂直に持ち上げてください。



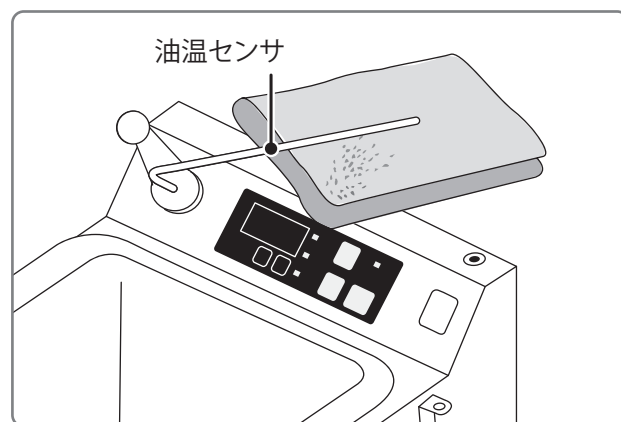
- 4 中性洗剤・スポンジ等で洗浄する

- よくゆすいだ後、乾いた布で水分を十分に拭き取り、乾かしてください。

油温センサーの清掃

1 柔らかい布で拭き上げる

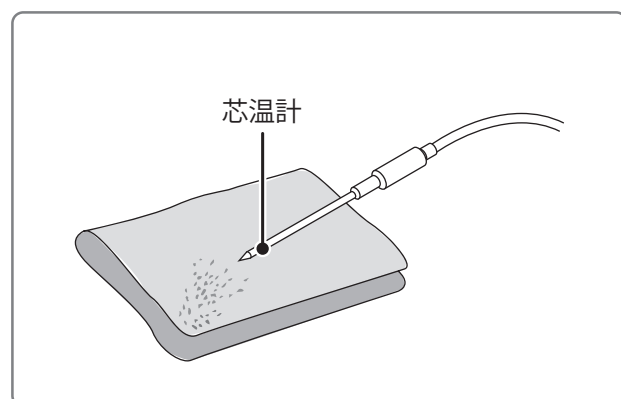
- 油温センサーは非常にデリケートな部品です。
- 洗剤は使用しないでください。



芯温計の清掃

1 柔らかい布で拭き上げる

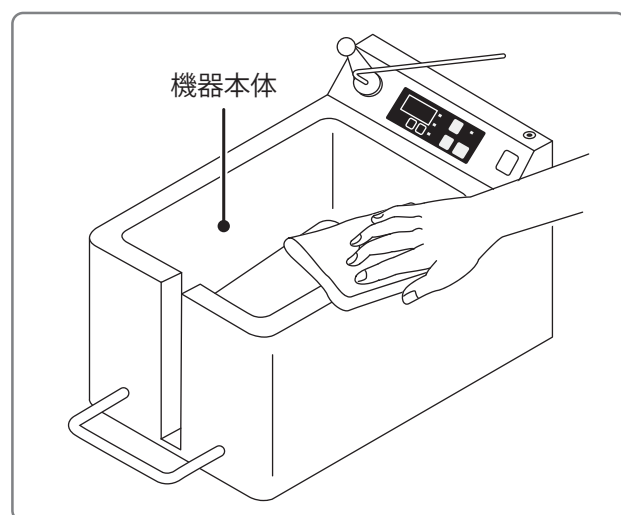
- 芯温計は非常にデリケートな部品です。
- 洗剤は使用しないでください。



機器本体の清掃

1 よく絞った柔らかい布で拭き上げる

- 機器内に水が入り込むと故障の原因になります。
- 洗剤は使用しないでください。



困ったときは

- 修理を依頼される前に下記の項目をお試ください。
改善されないときは、サービス窓口にお問い合わせください。

症 状	原 因	対処方法	参照ページ
電源ブレーカーを「入」にするとすぐに「切」に戻ってしまう	機器が漏電している可能性があります	電源ブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いたあと、サービス窓口へご連絡ください	—
異臭や煙がでた	—		
本体が焦げ臭い	—		
電源が入らない	電源プラグがコンセントから外れている	電源プラグをコンセントに差し込んでください	⇒ 5 ページ
	電源ブレーカーが「切」になっている	電源ブレーカーを「入」にしてください	⇒ 7 ページ
	電気が供給されていない	設置場所のブレーカーの状態等、電気の供給に問題がないか確認してください	—
設定温度まで上がらない	立ち上がり時間が不足している	加温途中です もうしばらくお待ちください	—
	吹きさらしの場所に置いている	外気を遮断するようにしてください	—
電源コードが破損した	電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いた後、サービス窓口にお問い合わせください		—

- 製品に異常が生じた場合、エラー表示でお知らせします。

エラー表示	原 因	対処方法	参照ページ
E1	油温センサー 故障	電源ブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いたあと、サービス窓口へご連絡ください	—
E2	鍋有無検知センサー 故障		
E3	芯温計 故障		
OH ※	過昇警報	オイル鍋にオイルが MIN ライン以上入っていることを確認してください	⇒ 7 ページ
PAn ※	オイル鍋が正しくセットされていない	オイル鍋が正しくセットされていることを確認してください	⇒ 7 ページ
SEn ※	油温センサーが下位置にセットされていない	油温センサーが下位置にセットされていることを確認してください	⇒ 5 ページ
non ※	芯温計が正しくジャックに差し込まれていない	芯温計が正しくジャックに差し込まれていることを確認してください	⇒ 9 ページ

- ※ 対処方法を確認してもエラー表示が改善されないときは、
電源ブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いたあと、サービス窓口へご連絡ください

製品仕様

品名	調理用オイルバス
型式	OB28
外形寸	W280 × D546 × H300.5 (mm)
質量	12.6 kg (本体のみ)
容量	8 L
定格	AC100V 50/60Hz 310W
設定可能温度	50 ～ 100℃ ※使用環境温度 18 ～ 27℃ (直射日光を受けない状態において)
電源コード	長さ：1.8 m、プラグ：横型・接地型 2 極差込
材質	ステンレス鋼板
付属品	芯温計 [1 個]、変換プラグ [1 個]

※仕様は、製品の改良のため変更する場合があります。

アフターサービスについて

■ 修理をされる前に

- まず「困った時は⇒14 ページ」の内容を必ずご確認ください。
- それでも直らないときは、メーカーサービス窓口にご連絡ください。

■ 製 品 の 保 証

- 保証期間中は、製品保証規定に従って無償にて修理いたします。
- 保証期間が過ぎている場合は、有償修理とさせていただきます。
- 補修部品の保有期間は、当該機種製造終了後 5 年間です。

■ 修理依頼のしかた

メーカーサービス窓口下記事項をお伝えください。

- お名前または事業所名
- 型 式：OB28
- 製品番号
- 故障内容

メーカーサービス窓口



日本ヒーター機器株式会社

〒143-0016 東京都大田区大森北 1-23-1 NET ビル 2F

顧客サービス課

 フリーダイヤル

0120-009-187

FAX
03-3768-8222

(年中無休)

製品保証規定

品 名	調理用オイルバス
型 式	OB28

1. 保証期間：納品日より 1 年間
2. 製品が保証期間内に故障した場合、無償修理をいたします。
3. 保証期間中でも次の場合は有償修理となります。
 - 1) 不適当な取り扱いによる故障または損傷の場合
 - 2) 故障の原因が、本製品以外の他の機器による場合
 - 3) 天災地変、異常電圧等による故障、損傷の場合
 - 4) 当社指定のサービスマン以外の方が修理された場合
 - 5) 製品・部品に改造が施されている場合
4. 本規定は日本国内のみ有効です。



日本ヒーター機器株式会社

〒143-0016 東京都大田区大森北 1-23-1 NET ビル 2F